

KYOTO COOP
サステナビリティ
レポート
2020



**KYOTO
COOP**

3つのコープのココロ

KYOTO COOPマークにある3つの〇は、
「安全・安心・信頼」の提供と
「暮らし・平和・民主主義」を守るという、
コープの大切なココロをあらわしています。



お問い合わせ

京都生活協同組合 政策企画部

〒601-8382 京都府京都市南区吉祥院石原上川原町1-2

Tel 075-672-6304 Fax 075-661-4311



用紙：適切に管理されたFSC®認証林およびその他の管理された供給源からの原材料で作られています。

一人ひとりの暮らしを支え、 安心して暮らせる社会の実現へ

京都生協は、新21世紀ビジョン「わたしの暮らし わたしたちの地域に 協同がはぐくむ 安心と笑顔」の実現に向けて、事業と活動を行っています。一人ひとりの暮らしを支えるということは、安心して暮らせる社会の実現ということでもあります。京都生協は地域社会の一員としての役割をより積極的に発揮していきたいと考えています。

今回のレポートでは、新たに、2019年11月にオープンしたコープ山科新十条における環境配慮の取り組みを特集として取り上げています。また、食品ロス削減やプラスチックごみ削減の取り組み、そして「ヘルシーコープ」やアレルギー対応商品「スマイルティッシュ」など、エシカル商品普及の取り組みも取り上げました。

2020年度も、組合員の暮らしを支える事業の充実、多くの京都府民から信頼され愛される京都生協になるために、組合員・職員はもちろんのこと、生産者や取引先、行政・地域諸団体など、関係者との協同や連携を大切にしていきたいと考えています。2015年国連総会で採択された「SDGs」(持続可能な開発目標)は、2030年までに持続可能な世界・社会を実現するために確認されたものですが、京都生協もこの持続可能な社会の実現に向けて積極的に役割発揮をしていきたいと考えています。今回のサステナビリティレポートは、この「SDGs」の目標との関係で編集をしています。皆さまから率直に意見を頂きながら、引き続き改善に努めてまいります。より一層のご支援とご協力をお願い致します。



理事長 畑 忠男

CONTENTS

サステナビリティレポート発行にあたって…2, 3
 特集 | 環境や人に配慮した新型店舗…4, 5
 事業紹介…6

1. 未来につながる生産と消費…7~12
 ・組合員と生産者をつなぐ ・地域と農業をつなぐ
 ・笑顔につながるお買い物 ・安全・安心の商品提供

2. 安心して暮らし続けられる
 地域社会づくりのために…13~18
 ・さまざまなお買い物支援 ・想いに寄り添う福祉サービス
 ・子育て応援 ・組合員参加の広がり
 ・地域に広げる連携の場

3. 未来の地球を守るために…19~22
 ・食品ロスを減らす ・廃棄物の削減・再資源化
 ・持続可能な未来を考える ・持続可能なエネルギー消費
 を目指して

4. 活力ある職場づくりを目指して…23~25
 ・ライフステージに合わせたサポート制度
 ・働きやすい職場環境づくり

5. 組合員の「願い」や「想い」を
 実現するために…26~27
 ・組合員とともに歩む ・経営責任

京都生協が目指すこと



新21世紀ビジョン

「わたしの暮らし わたしたちの地域に 協同がはぐくむ 安心と笑顔を」

2001年、21世紀の京都生協が目指すものとして「新21世紀ビジョン」を定めました。一人ひとりの暮らしから協同の輪を広げ、誰もが安心して笑顔で暮らせる地域社会の実現を目指すものです。

職員ビジョン

「頼もしき隣人たらん」

地域にとっても、職場の仲間同士でも「頼もしい存在」であり続けられるように、初代理事長が呼びかけた言葉を「職員ビジョン」として掲げています。



SDGsと京都生協が目指すこと

SDGsは、2015年9月の国連で採択された「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称で、2030年までに世界の国々が力を合わせて達成を目指す共通の目標です。SDGsは2030年までに貧困をなくし、地球環境を保護し、平和で豊かな社会の実現を呼びかけており、生協が目指す方向性と重なり合っています。京都生協は、「新21世紀ビジョン」の実現とともに、SDGs達成に向けた貢献を進めます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標



サステナビリティレポート編集方針

2030年までの「SDGs」目標達成に向け、持続可能な事業や取り組みを行っています。今年度からレポートの名称を、「社会的責任」を意味する「CSR」から「持続可能な社会の実現」を意味する「サステナビリティ」に変更しました。ISO26000の社会的責任に関する手引書を参考に構成された「京都生協が考える社会的責任」に加え、「新21世紀ビジョン」、「コープSDGs行動宣言」の目標達成に向け貢献した事業、取り組み内容を報告します。

特集 | 環境や人に配慮した新型店舗

エシカルなお買い物

環境や社会への視点をプラスしてお買い物をする「エシカル消費」につながる工夫を進めています。エシカルな商品を集めた売り場づくりや、オーガニックナッツの量り売りコーナーを設置しています。



太陽光パネル

お店の屋上部分に太陽光パネルを設置しています。年間約15%の電気使用量をまかなうことが可能です。



災害対応

災害時もお店を開くことで、地域のライフラインとなるよう設備を工夫しています。窒素ガスの力で放水を行う消火装置「ナイアス」を京都市で初めて設置しました。貯水タンクの水は腐敗せず災害時の事業継続に活用できます。



子育てひろば

子どもたちと子育て中のご家族のために、楽しくゆったりとした時間をお届けしています。子育てについての情報や悩みを気軽に話せる、地域のコミュニティづくりの場所として広がっています。



職員に向けた 託児サービス

京都生協で初めて、職員を対象とした施設内での託児サービスを始めました。働きやすい職場環境づくりを目指しています。



コープ山科新十条



普段の暮らしを豊かに、楽しく、地域の一員として組合員一人ひとりに寄り添いたい。そんな想いを大切にするお店が2019年11月、山科の地にオープンしました。エシカル消費の推進や自然エネルギーを活用した施設づくりなど、地球に地域に優しいお店づくりを進めています。

お店と宅配 の可能性

お店に隣接して宅配支店を併設しています。今後は、それぞれの持ち味を生かしたサービスの提供を進めていきます。



グルテンフリー・ アレルギー対応のコーナー化

家族みんなで同じ食卓を囲んでほしいという想いから、食物アレルギー、グルテンフリーに対応した商品を分かりやすくコーナー化する売り場づくりを行っています。



地域との交流

地域のコミュニティづくりの拠点となるよう、施設を開放したイベントを開催しました。フリーマーケットや農家の方々による地場野菜販売、地元出身のアーティストとともに職員が地域のダンスを披露するなど、交流を深めました。



▲施設の土地の一部を市に寄贈した公園



事業紹介

力をあわせて



チーム京都生協

福祉事業

サービスを受ける利用者も、そ
のご家族も毎日を笑顔で過ごせる
ようなサービスを提供します。

【取り扱い事業】

- ・訪問介護・通所介護
- ・居宅介護支援
- ・小規模多機能型居宅介護

事業所：7事業所

供給高：4億8,841万円

利用人数：1,521人/月間

宅配事業

京都府全域に週に1回、食品か
ら日用品、雑貨まであらゆる商品
をお届けします。

【取り扱い事業】

- ・配達サービス・夕食サポート
- ・コープでんき

事業所：10支部

供給高：530億円

利用人数：17万4,268人/週間

店舗事業

安全・安心の品揃えとサービ
スを提供し、日々のお買い物か
ら暮らしを支えます。

【取り扱い事業】

- ・店舗・お買物サポートカー
- ・おかいもの便

事業所：18店舗

供給高：240億円

利用人数：3万3,331人/日

共済事業

全国の組合員同士が「助け合
い」の気持ちで実現する保障制度
です。

【取り扱い事業】

- ・共済・店舗共済カウンター

加入者数：260,202人

支払件数：39,057件

葬祭事業

宗教・宗派・形式を問わず、ご
葬儀から仏壇仏具、お墓までト
ータルにご案内します。

【取り扱い事業】

- ・コープ葬クオレ

事業所：1事業所

供給高：9,239万円

会員数：1万1,666人



京都生協 グループ

京都生協とともに、
組合員の暮らしを
トータルでサポートします。

(株)コープネットワークサービス

京都生協の物流部門を中心
に、宅配事業の一部やその他業
務を担っています。

【取り扱い事業】

- ・運送・販売・請負・警備
- ・農産加工・注文受付業務
- ・エコ、リサイクル

設立：1997年

資本金：2,500万円

売上高：54億0,645万円

(株)京都協同食品プロダクト(株)

水産・畜産の生鮮加工食品の
製造、販売を行う、京都生協の加
工センターです。

【取り扱い事業】

- ・水産部門・畜産部門

設立：1982年

資本金：9,050万円

売上高：43億0,905万円

(株)京都コープサービス

暮らしの快適さや安心をサポー
トするサービスの提供、生協施設
のメンテナンスを行います。

【取り扱い事業】

- ・ハウジング・保険
- ・文化サービス・メンテナンス

設立：1977年

資本金：5,000万円

売上高：5億5,603万円

(株)コープストアサービス

京都生協の9店舗でインスタ
ンペーカリーの業務運営を行って
います。

【取り扱い事業】

- ・店舗ペーカリー運営業務委託

設立：2004年

資本金：1,000万円

売上高：1億 5,859万円

(株)ハートコープきょうと

京都生協の特例子会社として障害
者が働く職場環境を整備していま
す。宅配コンテナの洗浄とリサイク
ル品の資源化作業を行っています。

【取り扱い事業】

- ・宅配コンテナ洗浄
- ・リサイクル

設立：2013年

資本金：1,000万円

売上高：1億3,073万円



▲「産直平山さんのたねなし柿」作業風景

1 未来につながる 生産と消費

食を通じた
「豊かな暮らし」の提供

笑顔につながる
お買い物

安全・安心の
商品提供

関連するSDGs

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

●主たる目標

1 貧困を
なくそう



世界から飢餓や貧困
をなくし、子どもた
ちを支援する活動を
推進します

12 つくる責任
つかう責任



持続可能な生産と消
費のために、商品と
暮らしのあり方を見
直します

●関連するSDGsの目標





組合員と生産者をつなぐ



京都生協の産直

新たな産直商品

新たに京都、滋賀、奈良のCO・OP米3品が産直認定されました。産地と組合員の関係を強め、お米の安定供給を進めます。中でも滋賀の「みずかがみ」は環境こだわり米としてJAによる肥料や農薬の統一を行い、お米の品質向上や環境負荷の低減に努めています。



産直商品の基準は4つ

- 1 商品がどのように作られたか、明らかになっている
- 2 商品の点検・検査を生協の職員が毎年行っている
- 3 京都生協と生産者、組合員が商品を通じた交流を行っている
- 4 環境にやさしい栽培や生産を進めている

産直商品数：196点・取引先：96件

産直基準をクリアした商品に付く産直マーク

も～も～キャンプ

日本の農業について理解を深める目的で、「せいきょう牛乳」や「産直鳥取牛」のふるさとである、鳥取県の産地を組合員とともに訪ね、餌やり体験や生産者との交流を深めました。1971年から続く歴史ある取り組みの一つです。



産地交流

「産直天草晩柑」のお届けを開始してから20周年を迎えたことを記念し、京都生協理事長と専務が「天草ジューシー出荷組合」の生産者とともに記念植樹を行いました。



地域と農業をつなぐ

お店の産地消費コーナー

京都府内の生産者が自ら納品、価格を設定し、顔の見える新鮮な農産物を組合員にお届けしています。収穫体験会や店頭販売で野菜の知識を伝えるなど交流を深め、地域の持続可能な農業生産を応援する役割を担っています。



京都府北部の丹後地域と「まちづくりに関する連携協定」を結び、地域の野菜を道の駅丹後王国「食のみやこ」へ集荷し、コープ京田辺・コープ男山へ納品しています。お店に並ぶ野菜がどこから来ているのか、どのように育てられているのかを学ぶため、京丹後の岡崎農園を訪問し「収穫体験ツアー」を行いました。



さくらこめたまご

京都府下の休耕田を活用して飼料米を生産し、飼料米入りの餌を食べた鶏の卵を「さくらこめたまご」としてお届けしています。

さくらこめたまごを1個利用すると、1円の応援金が飼料米生産者や養鶏業者に寄付される仕組みで、産地消費、農業・農村の再生、食糧自給率の向上を実現できます。



日本の食糧自給率は2018年、37%と過去最低を記録しました。爆発的に増える世界人口を前に、地球規模での食料不足を懸念する声も上がっています。京都生協では取り組みを進め、京都府内の食糧自給率向上に貢献しています。

産地消費契約農家数：218人
供給高：3億4,479万円

供給点数：394,000点・応援金額：356万2,660円

1 未来につながる 生産と消費



笑顔につながるお買い物

エシカル消費の推進

地域や環境、社会や人々に配慮してモノやサービスを買うことを「エシカルなお買い物」と表現し、そしてそれは「誰かの笑顔につながるお買い物」と考えています。普段何気なく選んで買っている商品が、実は、地域をさらに豊かにしたり、地球の環境を守っていたり、飢餓に苦しむ子どもたちの給食支援につながっています。そんな「エシカル消費」を京都生協では積極的に応援しています。

エシカル商品取り扱い：1,983万2,172点

<エシカル商品の一例>

CO-OP セイロン紅茶



**国際フェアトレード
認証ラベル**

公正な価格で取引されている商品に認証マークが付けられています。開発途上国に暮らす人々の生活や環境を守ることに繋がっています。

CO-OP ミックスキャロット



FSC® 認証

適切に管理された木材とその製品で作られた商品に認証マークが付けられています。森林資源を守る仕組みを作ることに繋がっています。

CO-OP カカオ70%チョコレート



**レインフォレスト・
アライアンス認証**

より持続可能な農業を行う農園で育てられた商品に付けられています。森林とそこに暮らす人々の生活を守ることに繋がっています。

乳幼児食シリーズ「きらきらステップ」

「子育ての悩みや不安を解決したい」そんな思いから誕生した、離乳食・幼児食づくりに特化した商品シリーズです。



1 子育て中の組合員モニターとともに商品開発

5 子どもの食べやすさを考えた、大きさ・食感・うす味仕上げ

5つのこだわり

2 安全な原料を、徹底した商品設定や品質検査を行い商品化

4 使い方が自由な、野菜や主食の素材を商品化

3 冷凍品を中心に、保存に適した商品をお届け

**きらきらステップ取り扱い：
宅配 19種類・店舗 9種類**

食卓から健康をサポート



ヘルシーコープ

「健康な食生活を送るには？」の悩みに、「食べ方(レシピ)」と「商品」の提案でサポートします。食物繊維や野菜などの摂取したい栄養素を取る商品や、塩分や糖質、カロリーなど減らしたい栄養素を減らす商品がラインアップされています。



スマイルディッシュ

家族で一緒に食卓を囲める商品を目指して、「特定原材料7品目」を使わずに開発したシリーズです。品質管理を徹底し、製造する環境や工程、使う原材料などについて細かく取り決めていきます。

CO-OP フルーツグラノーラ



CO-OP 野菜たっぷり和風ドレッシング
カロリーハーフ



CO-OP 7品目を使わない
発芽玄米スパゲティタイプ



**ヘルシーコープ取り扱い：
宅配 106種類・店舗 29種類**

**スマイルディッシュ取り扱い：
全10種類**

進めようエシカル

サステナブルな生産に配慮された商品にはさまざまな認証マークが付いています。エシカル消費についてもっと気軽に知っていただくための商品紹介や企画を行いました。



環境マーク付き商品を探せ! キャンペーン

京都府が主催する「京都環境フェスティバル」で、コープ商品に付いている「環境配慮マーク」を探すゲームを行いました。楽しく環境マークについて学ぶ機会を持ちました。



サンゴ再生もずく基金

地球温暖化によって、海のサンゴ礁は危機に直面しています。コープでは、おいしいもずくが育つために欠かせないサンゴ礁を守る支援を続けています。生産者とともに、対象商品1品のご利用につき1円を「サンゴ再生もずく基金」に寄付しています。



1 未来につながる 生産と消費



安全・安心の商品提供

商品点検

生協基準でしっかり検査

食中毒の原因のほとんどは、細菌やウイルスといった微生物によるものです。京都生協では国の基準よりも厳しい基準を設定し、微生物検査を行っています。例えば和生菓子には国の微生物基準はありませんが、生協では独自に基準を設け安全を確認します。

生産地を訪問

職員が生産地を訪れ、正しく栽培・飼育されているか、施設などの環境に問題がないかを点検します。

科学的視点でチェック

商品が正しく生産、製造されているかどうか理化学検査を行っています。コープきんきや日本生協連の検査施設なども活用し検査を進めています。

-  **微生物検査数：3,040検体**
-  **産地点検力所：65カ所**
-  **工場点検実施力所：16カ所**
-  **理化学検査数：259検体**

産地・工場点検の様子を
ホームページに掲載しています。



組合員から寄せられる、日々の暮らしの中から発信された声は京都生協の商品やサービスの向上・開発につながるものとして受けとめ、改善や見直しにつなげています。

商品改善

〈改善事例〉

19年8月より **co-op** セフターENERGYの容器を改善しました!



よく使うけど
液だれが気になるし
目盛も見にくい…



組合員の声

改善
その1 **持ちやすさ・
計りやすさの向上**



キャップ

改善
その2 **注ぎやすさ・
詰替えやすさの向上**



注ぎ口

2 安心して 暮らし続けられる 地域社会づくり のために

事業を通じて
地域社会を支える

広がる
交流の輪

地域に広げる
連携の輪

関連するSDGs



●主たる目標

3 すべての人に
健康と福祉を



健康づくりの取り組みを
広げ、福祉事業・
助け合い活動を進め
ます

11 住み続けられる
まちづくりを



誰もが安心して暮ら
し続けられる地域社
会づくりに参加します

●関連するSDGsの目標



2 安心して暮らし続けられる地域社会づくりのために



さまざまなお買い物支援

お買物サポートカー

住み慣れた地域で暮らし続けるために、組合員の自宅の近くと店舗を結ぶ無料の送迎車を運行しています。「コープのお店でお買物をしたい」「歩いて行くのが大変」といった組合員からの要望をもとに、新たにコープさがの、コープ男山の2店舗で運行を始めました。



▲コープながおか送迎の様子



運行店舗数：8店舗

登録者数：688人

移動店舗「おかいもの便」

「自宅の近くで、自分の目で見て買物がしたい」という組合員の要望に応え、生鮮品・総菜などを積んだトラックによる移動販売サービスを行っています。近隣小売店の閉店でお買物が不便になった地域を中心に、社会福祉協議会や地域の自治会と連携しながら停留所を増やしました。



利用人数：20,750人／累計

新停留所：21カ所

お買物を通じた地域の見守り活動

地域の高齢者や子どもたちが安心して暮らせるよう、京都府内の自治体や社会福祉協議会などと連携した高齢者等見守り活動協定を締結しています。認知症が疑われる高齢者の発見や自宅での急患対応など、配達を通じて安心して暮らせる地域社会づくりに貢献します。



見守り通報件数：19件

想いに寄り添う福祉サービス

高齢化が進む中、介護に最も必要とされるのは、利用者やその家族の住み慣れた「普通の生活」を送りたいという想いに寄り添うことだと生協は考えます。利用者のペースに職員が寄り添い、自分にできることを見つけだすケアを目指します。利用者本人が「その人らしく生きる」こと、そのご家族も安心していきいきと毎日をご過ごすようそれぞれの想いに寄り添います。

<サービス内容>

<p>居宅介護支援事業 ご相談のもと、ケアプランを作成します</p>	<p>5カ所 訪問介護事業(ホームヘルパーサービス) 自宅へ伺い必要な介護・支援を提供します</p>	<p>1カ所 通所介護事業(デイサービス) 自宅まで送迎、日帰りで施設を利用します</p>	<p>小規模多機能型居宅介護 通い・泊まり・訪問の3つのサービスをひとつの施設で利用します</p>
---	---	--	--

小規模多機能型居宅介護事業「コープケアセンター五条御前」をスタート

自宅に暮らしながら「コープケアセンター五条御前」に通いデイサービスを受けたり、宿泊したり、自宅での訪問介護を受けたりと、一人ひとりの暮らしにあったサービスを提供します。



福祉サービスをご利用いただいている方からの喜びの声、職員がうれしい気持ちになった事例の一部をご紹介します。

★きらりホット事例

認知症が進みサービス利用を始められました。サービス開始当初は顔見知りの誰かと一緒にないと援助に入らせてもらえませんでした。明るく楽しい雰囲気づくりを心がけて接していると、徐々に心を開いてくださるようになりました。最近「あなたが来てくれると思ったら、前の晩からうれしくてワクワクしてくるの」とお言葉をいただき、その翌週には「あなたが頑張ってくれていると思ったら、自分も何かしたいね!」とお部屋の整理をされていました。



※きらりホット事例:利用者からの喜びの声など、うれしい事例を職員同士で交流する取り組みのこと

声のキャンバスお買いものサポーター「みちくさ」

宅配サービスを利用している、視覚に障害のある組合員リスナー約60人に、商品案内カタログを読み上げて録音したCD「声のキャンバス」をお届けしています。声のボランティアスタッフが毎週交代で音声を吹き込み、基本の商品情報から次回の企画時期、アレルギー品目まで細かく丁寧に伝えたCDを製作しています。

利用者の声

こんなにたくさん商品があることを知り驚きました。いろいろと注文しようと思います



▲送付用CD製作の様子
音声の編集や送付の準備を行っています



子育て応援

コープの子育てひろば

子育て中の方にとっての出会いと交流の場として、子育ての悩みや、情報交換ができるひろばを毎月開催しています。絵本の読み聞かせや、季節に合わせた楽しいイベントなど、子どもたちが楽しく過ごせる工夫をしています。



開設数：10カ所
参加者数：1,908人

利用者の声

同世代の子どもを持つママたちと交流ができ、とてもよかったです。スタッフの方の対応もよく、気持ちよく利用できました。



はじまるばこ

1歳未満の赤ちゃんを対象としてプレゼントされる「はじまるばこ」は2016年よりスタートし、累計で17,710人へお届けしました。お届け箱にすてきなデザインを描き、プレゼント後もおもちゃ箱や小物入れとして、リユース活用できるよう工夫しています。



食育

子どもから大人まで生きる「力」としての食を大切に作るきっかけづくりに料理教室、田植え体験、朝ごはんは大切講座などの企画を実施しました。



▲京都府綾部地域の生産者のもとで稲刈りを体験

子どもの未来アクションアンバサダーに登録

日本の子どもの貧困率はOECD加盟国の中で最悪の水準にあり、7人に1人の子どもが、相対的貧困状態にあるといわれています。この問題を理解するための学習会を京都生協のエリア会を中心に開催しました。地域で助け合い、支え合う社会づくりに貢献しています。



お買い物を通じた子育て応援

子育て中のご家族に、子育てサポートの取り組みを進めています。2020年4月よりお店でのみ買物が表示価格の5%割引となる「子育て応援デー」の対象者を中学3年生まで引き上げることを決定しました。宅配では妊娠中から6歳までの子どもがいる家庭を対象に配達手数料の割引を行っています。



組合員参加の広がり

エリア会

自分の暮らす地域を中心としたエリアの組合員が集まり、生協、暮らし、商品等を学び、企画づくりを通じてエリア内の活動参加を広げています。



コープクラブ

自分たちの興味があるテーマで学んだり、教え合ったり自由に活動を進めています。



テーマ・コミュニティ

「食育」や「環境」などの社会的なテーマについて仲間と一緒にじっくり学びます。地域でのつながりづくりや他団体、NPOとの連携を行うこともあります。



ウェルカムパーティ

地域に暮らす人同士が関わる機会を大切に考え、コープの商品を通じた地域のコミュニティづくりのきっかけになるよう「ウェルカムパーティ」を企画しています。エシカル、子育てなどテーマに沿ったラインアップから選んだ商品を囲んで、気軽におしゃべりできる場づくりを応援しています。

利用者の声

エシカルコースを注文しました。お買い物で地域や環境、社会や人の笑顔を守れるなんて、もっと広く知らせたいし、ウェルカムパーティーのような取り組みを増やして知る機会を増やせたらいいですね。





地域に広げる連携の場

社会貢献活動助成金制度の開始

SDGsに貢献するNPOなどの団体が行う活動を支援することを目的に、新たに制度を開始し、8団体へ計130万円の助成を行いました。



<助成金を使った活動の一例>

特定非営利活動法人 就労ネットうじ ゆめハウス

宇治市内の小学生を対象に「地域における障害者への社会的配慮」について説明する絵本を製作しました。



認定NPO法人テラ・ルネッサンス



カンボジアの自立支援、必要機材の提供、村の協同組合運営の補助などを行いました。

特定非営利活動法人 そらいろプロジェクト京都

椅子に座って髪を切ることができない自閉症や、多動などの障害がある子どものヘアカットを行う理美容師を増やすための講習会を開催しました。



子ども食堂 親子料理教室

労働者協同組合(ワーカーズコープ)が主催する「子ども食堂」の運営に協力しています。京都生協本部の食堂を開放し、親子で一緒に食事づくりをする「親子クッキングスタイル」で参加者に料理を教えています。

たとえ1時間でも忙しいお母さんを見かけたい! 子どもとご飯を一緒に食べて、ゆっくり過ごしてほしいと思ってやっています。



ワーカーズコープ代表



「きょうされん」への協力

「誰もが分け隔てなく生きていける社会」を目指し「きょうされん」と協定を結んでいます。署名や募金活動、作業所の訪問、夏にはきょうされんの仲間たちとともに「きょうされんのつどい」を開催し、物品販売やコンサートを行いました。

※きょうされん: 成人期の障害のある人たちが、地域で働く・活動する・生活することを応援する事業所の全国組織です。



防災訓練

年々頻発する災害に対応して、京都生協内では事業継続計画(BCP)に基づいた他組織との通信訓練や職員の安否確認訓練を行いました。京都府の防災訓練にも参加し、支援物資を被災した組合員のもとへ届けできるよう配送シミュレーションを確認しました。また、台風19号の発災を受けて、緊急支援募金に取り組み総額504万3,818円は、日本生協連を通して被災された方々を支援するために活用されました。



▲「プラスチックごみ問題を考えるフィールドワークin琴引浜」にて

3 未来の地球を守るために

食品ロスを減らす

組合員とともに環境を考える

持続可能な未来を考える

関連するSDGs



●主たる目標

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します

16 平和と公正をすべての人に



核兵器廃絶と世界平和の実現を目指す活動を推進します

●関連するSDGsの目標



3 未来の地球を守るために



食品ロスを減らす

フードドライブの実施

ご家庭の「もったいない食品」をお店やイベント会場で寄付を募り、フードバンク団体を通じて、それを必要とする福祉施設や母子生活支援施設など、さまざまな理由で食事に不自由をされている方々へ寄付しています。組合員や地域住民からの声に応え、新たに6店舗で取り組みをスタートし、回収量は昨年と比べ1,203kg増加しました。

実施店舗：9店舗
総回収量：1,925kg



食べ残しや売れ残り、期限が近いなどさまざまな理由で「食べられるのに廃棄される食品」=食品ロスが起きます。京都生協ではこの「もったいない食品」を削減するための取り組みを進めています。

食品ロスを減らすために私たちにできること

食品ロス問題専門家の井出留美さんを講師に迎え、食品ロスの現状や家庭でできる「もったいない食品」の減らし方について分かりやすくお話いただきました。当日はフードドライブを行い、参加者からの寄付を募りました。



▲井出留美さん

「食べ残しゼロ推進店舗」として

店内にポスターを掲示し組合員への理解・協力を呼びかけ、食品ロスが発生しないような入荷量の調整や、賞味・消費期限までの商品販売を行いました。京都生協の全店舗が、京都府・京都市から「食べ残しゼロ推進店舗」として認定を受けています。

<店内掲示物の一例>



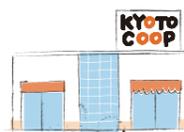
良品返品ルールの変更

宅配で「注文間違い」などを理由とした食品の良品返品は年間10万点にのぼります。その実態をお知らせするとともに食品廃棄を減らすため、2020年度より開始する「食品良品返品ルールの変更」実施のお知らせを進めました。



学生への活動紹介

食品ロス削減への関心が高まる中、食品ロスの削減、ごみの分別状況をどのように進めているのか、掲示物やノントレー商品などを、店内を回りながら紹介しました。



廃棄物の削減・再資源化

日々の生活で私たちが使用するプラスチックは「軽い」「強い」「安い」といった手軽で便利な製品ですが、一方で「プラスチックの海洋汚染」が問題となっています。生き物が安全に暮らすことができる、豊かな海をいつまでも残していくため、プラスチックと上手に付き合っていけるよう取り組みを進めます。

プラスチックごみ問題を考える

お買い物袋持参運動

京都生協のマイバッグ持参率は全国平均よりも高い数字となっています。京都生協は1996年7月より全店でレジ袋有料化を行い、マイバッグ持参を呼びかけてきました。今後さらに啓発を続け2025年には持参率100%を目指します。2019年度は持参率93%で、推定1,249万枚のレジ袋を削減できました。

プラスチックごみ問題を考えるフィールドワークin琴引浜

鳴き砂で有名な京丹後市網野町「琴引浜」の漂流物の現状を知るため、実際の浜で漂着ごみや微小貝集めを行いました。参加者はマイクロプラスチックごみがたくさんあることを体感し、生活の見直しを考える機会となりました。



環境のことを考えた商品開発

捨てる時はシールをはがすだけで、簡単に分別できます。



co-op ラベルのない水

プラスチックごみ削減に向けた取り組みの一環として、ペットボトルに巻くラベルフィルムを省きました。商品に必要な表示は、段ボール箱とシールに記載しています。

1ケース(6本)あたりのプラスチック使用量を約5g削減しています。

マイバッグ持参率：93%

リサイクル回収総量：4,788t

ペットボトルキャップ回収量約：483万個

SR・環境目標

A 良好(100%以上達成)、B やや不足(90%以上達成)、C 不適合(90%未)

環境目標	評価	2019年度の取り組み
新規事業所開設予定のため、2018年度比102.5%のCO ₂ 排出総量とします。エネルギー使用量削減と再生可能エネルギーの活用に取り組みます。	A	CO ₂ 排出総量は11,141tで、2018年度比を95.8%に抑えることができ、目標に対して107%伸長となりました。コープ山科新十条、新洛東支部が開設し、電気使用量は前年より660,548kWh増えましたが、12月から再生可能エネルギー比率が40%の電気利用に契約変更したため、CO ₂ 搬出量は既存の事業所で削減できました。
環境に配慮した商品の取り扱いと普及を進めます。	--	店舗では毎月第1週にエシカル商品を集めた売り場づくりを実施し、宅配ではエシカル企画を増やしました。エシカル商品の総利用点数は19,832,172点となりました。
廃棄物の発生抑制、再資源化を進め、食品リサイクル率を48%向上します。	B	食品リサイクル率は46.7%でした。しかし、お店での廃食油と野菜くずの回収量が増え、前年と比べると4.4%回収量比は増加しました。
廃棄物の発生抑制、再資源化を進め、リサイクル回収総量、2018年度比101%を目指します。	A	リサイクル回収総量は4,788tでした。目標比は101.1%で、前年と比べ102.1%回収比率が増加しました。卵パック、宅配カタログ、トレー、ペットボトルの回収量が前年より増えましたが、牛乳パックの回収量は減少しました。
地域社会の要望に基づく施設見学や研修などの受け入れ、学習会の実施回数110回を目指します。	A	学習会、事業所見学などの年間活動総数は171回でした。組合員活動での外部講師の学習会、店舗見学・職場体験、宅配の施設見学の受け入れなどが増加しました。

3 未来の地球を守るために



持続可能な未来を考える

講演会の開催

京都生協55周年を記念し、京都大学 iPS細胞研究所 山中伸弥 所長との公開懇談会を開催しました。医学研究と食を中心としたサービスの提供という異なる立場から、京都から始まる未来への希望を語り合いました。



「よくわかる憲法の講演会」と題して、谷口真由美さんを講師として迎え、日本のすべての法律の根本である日本国憲法について分かりやすくお話しいただきました。



ヒバクシャ国際署名

「核兵器のない世界を実現したい」と、ヒロシマ・ナガサキの被爆者が国際社会に向けて核兵器の禁止・廃絶を求め2016年より国連へ署名を届けています。2020年度中に10万筆を集めることを目標に、京都生協が主催するイベント会場や、職員を対象とした研修など幅広いシーンで呼びかけを行いました。



 **ヒバクシャ国際署名数：9万5,081筆/累計**

台風19号被災地支援ボランティア

記録的豪雨となった台風19号により被災した地域へ、日本生協連を通じて、全国の生協から職員を派遣し支援活動を行いました。京都生協からも長野県と、宮城県の中でも被害の大きかった丸森町で、現場で使用した道具や資材の管理作業、現地ボランティアの送迎など計5日間にわたる支援活動を行いました。

地元の支援者の人々たちによる助け合いの心に感銘を受けました。



ボランティアに参加した職員

持続可能なエネルギー消費を目指して

コープでんき

コープでんきは未来のことを考え、二酸化炭素削減効果に期待できる、太陽光や風力、地熱といった再生可能エネルギー（FIT電気）を使用しています。再生可能エネルギーを100%（注1）使用し、CO₂排出係数をゼロにした「ゼロでんき」の普及に努めました。



もっと自然を残したい



もっと未来の発電を考えたい



もっと環境のことを考えたい

注1：四捨五入の関係上、構成比の積み上げは100%にならない場合があります。

 **コープでんき申し込み：1万8,256件/累計**

4 活力ある職場づくりを目指して

ライフステージに合わせたサポート制度

職員が働きやすい環境づくり

職員ビジョンの実現に向けて

▲Web Movie ～あなたの笑顔のために～



関連するSDGs



●主たる目標



ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します

●関連するSDGsの目標



ライフステージに合わせたサポート制度

子育てをサポート

育児休業・育児時短制度

京都生協では、子どもが生まれても働き続けられるよう充実した制度を設けています。子どもが3歳になるまで育児休業取得が可能で、小学校入学まで働く時間を短くできる育児時短制度の活用を職員へ伝えています。近年、男性の育児参加を推進するため、男性の育児休業取得にも積極的に取り組んでいます。2019年度子どもが産まれた男性職員10人中、5人が休暇を取得しました。

利用者の声

夫の育児休業は精神的にも体力的にも支えられました。また、大切な家族との時間を過ごすことができました。



育児休業取得者総数：9人 育児時短活用者総数：9人

職員向け託児施設

京都生協が保有するコープ山科新十条2階「託児ルーム」を活用した、職員向けの託児サービスの受け付けを始めました。子どもの預け先確保が難しい年末(12月29日～31日)と祝日(日曜除く)の8:00～18:00まで開園し働く職員をサポートします。また、京都市内5カ所の企業主導型保育園*1と共同利用契約を結び、待機児童における職場復帰対策に努めました。

*1：職員と地域のために設置した認可外保育園のこと。入園する園児を保育園が定めた方法で選考します。



多様な人材の登用

障害者雇用「ハートコープきょうと」

京都生協の特例子会社として、リサイクル事業などを通じて障害者の自立支援と雇用促進、環境保護など、社会に貢献しています。新たな仲間が増えたり、京都生協の職員とともに田植えボランティアに参加するなど交流を深めました。その他、さまざまな人材を登用するための制度を拡充しています。



障害者雇用率：3.46%

シニア嘱託職員制度活用者数：18人

働きやすい職場環境づくり

長時間労働削減に向けて

専任職員から正規職員への登用

人手不足の解消、職員の質向上のため、2017年より店舗パート職員から専任職員への登用を始め、2年が経過した今年、宅配職員からも正規職員への登用を開始しました。店舗職員は4人が、宅配職員は5人が正規職員登用となりました。今後も、パート・アルバイト職員の募集を強化するとともに、専任職員・正規職員の登用を進めます。

正規職員に登用された職員の声

「職員も組合員さんも笑顔で働き、お買い物ができるお店」を目指し日々努めています。



2018年正規登用コープパリティ店長

新たなチャレンジ精神をもって、ひとつひとつ丁寧に確実に、をいげて日々の業務を行っています。



2019年正規登用宅配運管部 教育トレーナー

専任職員登用：11人 正規職員登用：9人

ITの活用

宅配の配達現場では、注文の確認や商品に関わる業務を、スマートフォンを使用したスタイルへシフトしました。



現場でできる作業が増えたことにより、支部へ帰着後の業務が削減され働く時間の短縮につながりました。

業務改善提案

働く中で「もっとこうしたら良いのに」といった職員の気づきを集め、より良い職場環境づくりを進めています。多くの職員から寄せられた提案のうち、38件が改善事例として報告されました。



職員ビジョンの実現に向けて

クレド活用

職員ビジョン「頼もしい隣人たらん」の実現に向けて、毎月発行される職員広報誌の中でリレー形式で、さまざまな部局や職務の職員がクレドの具体的なエピソードを紹介しました。それぞれが一番大切にしているクレドや、自分にとっての「頼もしい隣人」像を伝え、日常的にクレドを意識する環境づくりを行っています。

※クレド：職員ビジョンに近づくための行動指針を定めたもの



▲職員広報誌のクレドに関するコーナー

待遇推進

働く上で必要な行動や想いを分かりやすく表現したポスターを支部や本部へ掲示し、職員の待遇力向上に取り組んでいます。職員自身がポスターのモデルとなることで、待遇に対する理解をより深めることができ、職員同士のコミュニケーションやモチベーションアップにつながっています。



2017年 2018年 2019年

5 組合員の「願い」や「想い」を 実現するために



関連するSDGs

●主たる目標

京都生協と関わる全ての
人とともに目標達成を目指
します



●関連するSDGsの目標

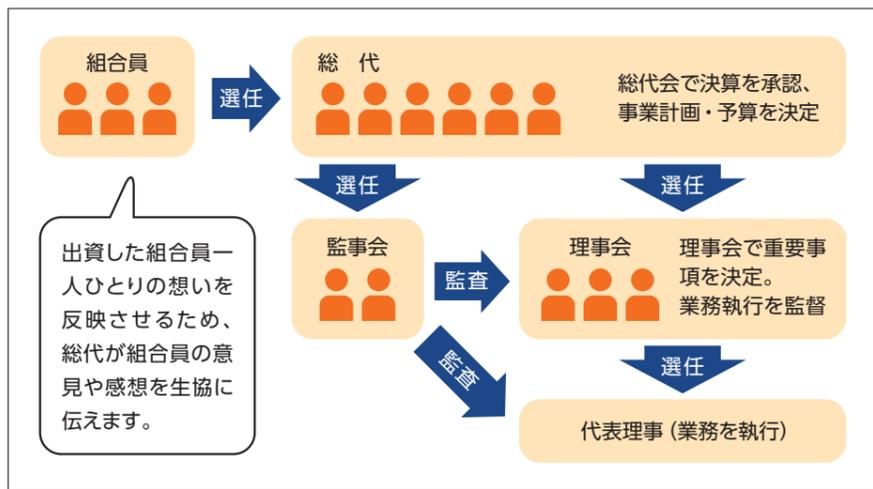


「秋の総代懇談会」の様子

組合員とともに歩む

生協運営

生協が社会的責任を果たすためには、「機関運営」が適正に行われることが必要です。生協で機関に当たるのは、最高議決機関としての「総代会」、総代会決定に基づいて重要事項を決定する「理事会」（生協を代表して業務を執行する「代表理事」を含む）、理事による業務執行の状況を監査し、適切な業務が行われるようにする「監事」（監事会）です。



2012年より組合員コールセンターを設置し、組合員からの問い合わせにきめ細やかに対応することで、より良いサービスを多くの組合員に届けています。

組合員の声が届く仕組み

〈お申し出例〉

組合員の声

「いつもと違う変なにおいがした」

分析

同じ商品（製造場所、製造日など）で同じ声が出ていないかを分析

改善・検討

取引先に連絡し、問題点について調査。さらなる品質向上、事故防止へ

■組合員コールセンター対応件数

苦情	55,292件
意見・要望	114,286件
問い合わせ	159,894件
合計	329,472件

※同じような声が複数あり、人に危害性がある場合は商品回収の連絡を行い、最後まで責任をもって対応します。

経営責任

■内部統制システムの整備

●公正で健全な組織運営を行うため、2010年に「内部統制基本方針」を定め、次の4つの目的を達成するために、毎月開催するリスク管理委員会で整備計画の進捗管理を行っています。

また、独立の立場で経営諸活動の全般にわたる制度及び業務執行状況を監視・検証するとともに、内部統制システムの構築の進捗状況、運用状況や有効性などについてモニタリングを行うため、内部監査担当による監査を実施しています。

業務の有効性
および効率性

財務報告の信頼性

事業活動に関わる
法令などの順守

資産の保全

■マネジメントシステムの運用

●「目指すべき方針や目標を定めて、その目標を達成させるための仕組み」として、「業務マネジメントシステム」を運用しています。仕事の改善を進め、組合員満足の向上、商品・サービス品質の向上、事業計画の達成を目指します。

■コンプライアンス態勢の推進

●倫理・法令や社会規範、職場のルールを守り、正直で誠実な事業と活動を進めるための職員教育に取り組んでいます。2005年に「コンプライアンス基本方針」「コンプライアンス自主行動基準・順守事項」を定めて、職員にコンプライアンス順守、ハラスメント防止、ネット上での情報発信の注意、飲酒運転の撲滅などの啓発をしています。

個人情報保護

●業務上ルールを明確にし、個人情報の適正な取得・利用・管理に努め、適正利用と安全管理を義務付けています。

●業務PCからのデータ持ち出しを防止するセキュリティ対策を行っています。

●個人情報事故（紛失など）報告書の提出義務付け、原因分析と再発防止の対策を確認しています。

ヘルプライン窓口の設置

●法律や生協内のルールに違反した行為についての通報を受け付けるコンプライアンス相談窓口（ヘルプライン）を外部に設置し、職員・取引先への周知を行っています。通報者は規程により不利益な処遇を受けません。

●職員相談件数……18件

●取引先相談件数…0件

外部審査の結果

特定非営利法人KES環境機構に登録し、毎年定期審査を受け、マネジメントシステムが有効かつ適切に機能・維持されているかを審査しています。

■審査機関 特定非営利法人KES※環境機構 ※京都から発信された「環境マネジメントシステム」の規格

■審査結果 KESステップ2SRに適合していると判定されました。

■審査対応 ◆受審組織 京都生活協同組合 ◆審査実施日 2019年9月12日・13日 ◆適用規格 KESステップ2SR ◆審査目的 京都生協のマネジメントシステムが、KESステップ2SRの要求事項に適合しているかを審査すること。

京都生活協同組合

創立：1964年11月27日
理事長：畑 忠男
事業活動エリア：京都府全域
事業所：支部 10 / 店舗 18 / 葬祭事業 1
介護事業所 7（デイサービス含む）
子会社・関連会社：5社
2019年度概況（2020年3月20日現在）
組合員数：55万 5,262人
事業高：802億 3,508万円
出資金：166億 1,189万円
職員数：1,599人（7.5H換算）



本冊子の感想をお寄せください

